

令和元年度 第4回岩見沢市男女共同参画実践プラン推進委員会 議事録(要旨)

●日時、出席者等

日時	令和2年1月21日(火) 午後6時～午後7時40分
会場	岩見沢市生涯学習センター「いわなび」 2階 研修室6
出席委員等	出席委員14名 欠席委員1名
事務局	4名

●議事録(要旨)

1. 開会

2. 委員長あいさつ

(東海林委員長からあいさつ)

本日はお忙しいところ、4回目の委員会にお集まりいただきありがとうございます。今年初めてでございますので、まずは明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。本日も予定としましてはグループ討議となりますので、皆様のご協力をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

3. 議題

(1) 第3次いわみざわ男女共同参画実践プラン(案)について

(事務局)

農業分野の男女共同参画について説明。(女性の農業従事者数、経営参画状況、意思決定過程への参画状況、家族経営協定と法人化、国の施策、岩見沢市の取組(新規就農支援、第6次産業化、アグリ女子)について)

(委員)

岩見沢の農業は何が中心ですか。

(事務局)

主要作物は水稻、小麦、大豆、玉ねぎ、白菜となっています。米や玉ねぎの作付面積や生産量は全道の中でも上位に入ります。

(東海林委員長)

それではグループごとにお話ししていただきたいと思います。まずは、岩見沢市の農業に関する認識・イメージ・意見や、取組としてあった方がよいもの、支援、制度などについて、付箋に書いていただきまして、それを模造紙に貼っていき、グループ内でお話してください。それからグループで出た意見をまとめていただきまして、発表していただくこととなります。時間の管理については事務局をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

(委員、5人ずつの3つのグループに分かれて討議を実施)

(東海林委員長)

それでは、グループごとに発表をお願いします。今回は逆からで第3班からお願いします。

(委員)

<第3班の発表>

イメージとしては、昔の農家はお嫁さんが大変そうな暗いイメージがあるけど、今は違って明るいらしい。今は若いお父さんは家事も育児もやっている。男女問わず目標をもって働いている。人と人とのつながりが大きな成果につながっている。昔は農家の長時間労働がすごくあったが、今は夕方6時くらいになって日が落ちたらやめて帰る、そのくらい変わってきているという意見がありました。しかし、農業以外の方からは農業の実態がよくわからないという意見もありました。

参画推進にあつたらいいものとしてまとめました。まず経営のあり方として、家族の中で役割分担を明確にすることや、家族経営協定、手伝うではなく自分の仕事としていくことが大事である。法人化とは言うけれども結構勇気が必要だという意見も出ました。次に、男女共に知識を増やすこととして、農業の「好き」足す「スキル」で「好きルアップ研修」の充実や、セミナーなどに積極的に参加することが必要で、若い女性が営農日誌をつけると仕事を覚えるのに役立つという話がありました。また、直売所・加工品の販売にも知識を増やすことが大事だという意見がありました。次に、未来へとタイトルを付けました。技術面では、スマート農業は女性も取り組みやすいので積極的に推進する。人としては、家事を男性が手伝うのではなく分担する。子育てしながら楽しく農業する秘訣を学ぶ。女性も家事労働以外にも新しい考え方を取り入れた方が良いという意見がありました。

最後に、若い世代が地域で活躍するために、と書きました。他の地域の取組として、若い農家のお母さんたちが保育所で食育などの活動をしているという話がありました。そのような活動を行っていく中で若い世代と農協の女性部がつながっていくことができれば、子育てを通したつながりづくりができるのではないかという意見がありました。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。第2班お願いします。

(委員)

<第2班の発表>

明るい岩見沢農業の将来が見えるかどうかが大変なのではということで、女性の発想を生かした商品の開発が必要なのではという意見が出ました。岩見沢市内では地元の農産品を使っているカフェが多い。また、直売所で女性が活躍している農家さんもあり、そういうところは親子関係も良い。「もぎたて」など農家の女性が野菜等を販売していることが多い。去年、農協青年部と女性部で軽トラ市をやりました。農産品には流通ルートがいくつもある。農協に出荷するところもあるし、本州に直接販売するところもある。海外の安い商品との競争もある。しかし、岩見沢の農産品はとても美味しいので他には負けない。だから売り上げの工夫が必要。フェイスブックなどで広くPRすることが大事。札幌とか本州に向けておいしい野菜がありますよというPRを増やしたらどうだろうということになりました。

また、後継者の問題がある。農家の高齢化や農家には嫁が来ないことが指摘されました。後継者は覚悟できないと続けていけないという意見がありました。しかし、後継者がいる農家では新しい家族観、今までの三世同居とは違う形で家族で協力して分担しているところもある。農家の嫁は小遣いや休みがないと昔は言われたが、意欲的な農家さんは女性参画していると感じる。

若い男性は協力的に家事をしている。親子が同居しないで別居しながら農業を行っている、親のそばに家を建てている人もいる。通いで農業をして奥さんが看護師とか別の仕事をしているケースもある。家族が多様化して、農業を頑張っている若い人もいるという意見がありました。

農業高校は後継者対策に役立っているのかという疑問も出されましたが、後継者には農業高校卒業生もいます。

現状として、男性が外、女性が内との役割分担は残っている。軽トラを運転しているのは女性が多い。一方、大型機械は男の人が担当が多い。農家は重いものを持つのでやっぱり腰にくる。そこで、ロボットスーツ、スマート農業、ICT、AIとかを使って新しい農業を作れば、女性の活躍の場も増えるのではという意見が出ました。以上です。

(東海林委員長)

ありがとうございました。第1班お願いします。

(委員)

<第1班の発表>

イメージとしては、休みがなかなか取れない。若いお嫁さんは他に自分の仕事を持っている。農協が絶対という感じが昔より薄い。かしこく経営している農家が増えた。農業自体、男が主、女が従というイメージが強い。女性には重労働。昔あった若妻会が今はどうなっているのか。女性部の頑張り、母さん市、もぎたて市など、昔よりは女性の活躍の場が増えているのではないかという意見がありました。私は親子ひろばをやっていますが、来てくれる農家のママたちはとても明るく、お子さんも多くて、他の班でも出たように役割分担や親世帯と別居しているとかも背景にはあると思うけど、昔のようなお嫁さんが大変というイメージを受けていませんでした。

推進と対策としてまとめました。まずは、仕事の役割分担で能力を発揮しよう。魅力ある発信、農業の情報発信として、どのように自分たちをアピールできるのが大事。昔の苦勞しているイメージばかりで、現状が全然わからない。当事者にアンケートを取ると、私たちが思うよりも楽しく、苦勞しないで農家はやっていけることが分かるかもしれない。もっと情報があれば挑戦したい人が出てくるかもしれないという意見がありました。また、家族内だけで考えると行き詰まるかもしれないので、公的機関ではなくても気軽に話せる相談窓口があると自分の息抜きができると思ったので、女性のための相談窓口と書きました。

感想としては、農業に限らず共稼ぎしている皆さんも同じで、自分たちの時間を取るための役割分担が大切だということと、あと、やっぱり、農協に女性の役員がいないところもこれから改善していかなければならないと思いました。以上です。

(東海林委員長)

ありがとうございました。それぞれ、いろいろなご意見がありました。事務局には持ち帰っていただきまして、素案づくりに活かしていただきたいと思います。

(2) その他について

(事務局)

次の議題に入りたいのですが、残り時間が少なくなりましたので、雇用分野における男女共同参画については、次回に持ち越しとさせていただきます。

4. その他

(事務局)

本日の議事録については、委員の皆様にご確認をいただいた後、ホームページ等で公表をしていきたいと思えます。また、次回の委員会については、2月中の開催を予定しており、明日以降改めて日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

5. 閉会